

令和7年度第1回温海地域振興懇談会で出された意見（検討事項）への対応

No.	委員意見	意見に対する対応	関係部署	担当課
1	<p>●高齢者等の移動手段について</p> <p>・高齢化が進む中で必要なのは医療機関と公共交通の充実であり、<u>特に免許返納後も移動できる環境を整えてほしい。</u></p>	<p>温海地域の移動手段としては、湯ったり号（戸沢線、平沢線、関川線）、庄内交通路線バス（あつみ温泉行、越沢行）、JR、個人タクシー（1社）等があり、それらを組み合わせて移動されている方もいる。</p> <p>市の支援としては、運転免許を自主返納した方がかつ公安委員会が交付する「申請による運転免許の取消通知書」に記載された取消日から起算して1年以内に手続きした方に対し、タクシー乗車券・庄内交通チェリカ・市営バス回数券のいずれか1種類を5千円分交付している。</p> <p>また、70歳以上の方と運転免許を自主返納した方は、庄内交通のバス定期券（shoko cherica）を通常より安く購入することができるほか、湯ったり号でも利用可能である。</p> <p>これらの移動手段や支援等を有効活用していただき、利用者の声を聞きながら、湯ったり号の利便性向上も検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールドパス…満70歳以上の方 ・自動車運転免許証返納者割引定期券…運転経歴証明書をお持ちの方（年齢不問） 	地域振興課 防災安全課	総務企画課
2	<p>●温海地域教育環境充実事業について</p> <p>・少子高齢化の中で子育て支援や過疎地域での学力格差の是正が重要であり、<u>子どもたちの学ぶ機会や意欲を高める取組をさらに進めてほしい。また、大学生など地域に縁のある若者が、子どもたちを支援する活動を拡充してほしい。</u></p>	<p>地域おこし協力隊の退任後も、あつみ地域未来塾を継続して実施することで、学力格差が生じないよう対応したい。年齢の異なる若者世代が集う活動については、ニーズや民間での取組状況を調査したうえで、実施要否について検討する。</p>	子育て推進課 教育委員会	総務企画課

No.	委員意見	意見に対する対応	関係部署	担当課
3	<p>●温海地域生きる力を育む教育推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに変化が見られることが重要であり、そのためには、児童・生徒が自分の強み・弱みを理解することが必要。 <p>アセスメントテストの結果を教師が面談などで活用すれば、適切な助言や支援ができ、子どもの成長を促せる。行政もその変化を指標として事業の効果を把握できる。高校生向けにはすでに一般化されており、小中学生向けのものであれば子どもたちの力を把握するのに役立つと考える。</p>	<p>SEL教育を通して育まれる資質・能力については、数字で測ることは難しいと言われている。しかしながら、成果の見える化、数値化は、取組みの効果を測り、継続を判断する上でも必要なことと考えている。今年度を実施した保育園・教師へのアンケートによれば、取組み後の子どもたちの変容が表れてきている。また、全国学力・学習状況調査、不登校児童生徒数、いじめの認知件数などから子どもたちの変化を総合的に確認することができないか教育委員会に相談したところ、温海地域のみ抽出し公表することは難しいとの回答であった。</p>	学校教育課	総務企画課
4	<p>●温海地域支え合い訪問活動事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が子どもに昔の遊びを教えるなど、世代間交流も取り入れるなど事業に変化を持たせ継続していけるような工夫をお願いしたい。 	<p>来年度も引き続き、お茶のみサロン、フレイル予防、地域外研修活動の実施予定である。当初計画の10集落が終了時点で、世代間交流等も取り入れられるよう工夫したい。</p>	地域包括ケア推進課	市民福祉課
5	<p>●現道の駅等の情報発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> マリンパークに固定カメラを設置し、弁天島の夕日などをYouTubeで配信することは可能か。また、YouTubeでイベント情報を発信することについて、技術面や予算面で厳しいのか、また検討の有無は。 	<p>ライブカメラの設置については、市内公共的施設への設置状況を鑑み、民間活力による設置・運営について期待するとともに、補助金や助成事業活用ができないか調査等を行っている。</p>	都市計画課	産業建設課
6	<p>●担い手確保対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業は、高齢化によって担い手不足が深刻で、農地維持が難しくなる見通し。これは地下水保全や流域の環境維持にもつながる。森林資源と農業を軸に地域の衰退を防ぐことが最も重要と考える。 	<p>広く意見交換や情報交換を行い、若手農業関係者相互の交流、次世代の担い手として農業経営の発展や魅力ある地域づくりにつなげたいとして、温海地域の農業次世代担い手ミーティングを開催している。(令和8年2月実施)</p>	農政課 農山漁村振興課	産業建設課

No.	委員意見	意見に対する対応	関係部署	担当課
7	<p>●移住（Uターン）支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住やUターン支援は事前登録が必要で、帰郷後では受けられない支援メニューもあることを知らなかった。<u>移住やUターンを考えている人に支援情報が届きにくい、必要な人に届いていないと感じた。</u> ・<u>帰ってきてからも支援できる仕組みを検討すべきだと考える。</u>地域外の人には情報が届きにくいいため、その点も今後の課題として行政に検討をお願いしたい。 	<p>山形県が実施している県外からの移住者への支援制度は、転入日前日までに「やまがた移住希望登録」への登録が必須条件となっている。これに関しては、山形県のホームページやSNS、本市の移住サイト等で周知を図っている。</p> <p>しかしながら、Iターン移住者と比較してUターン移住の方は「移住ではなく地元に戻る」という認識が強く、行政機関等に移住相談や問合せをせずに入居される方が多い傾向にある。これを少しでも改善したく、昨年8月に鶴岡在住の家族から移住支援があることを認識していただくため、市広報で「Uターン移住」について特集記事を掲載した。</p> <p>また、事前登録が必要な県の支援が受けられなかったという声をいただいて、令和7年度に本市独自の移住者向け食の支援制度を新設し、転入届出日までに当市へ移住相談していただくことを条件に、1万円相当の特産品による支援を実施している。</p> <p>市で実施している移住支援策については、内容によっては、移住後でも受けられるメニュー（リフォーム補助金や新築補助）もあることから、今後も市HPや移住サイト、市の公式LINE等で周知に加え、更なる情報発信・周知の方法も検討する。</p> <p>ご家族やお知り合いで県外から移住される場合には、移住前に地域振興課の移住定住担当までご連絡いただくようお願いしたい。</p>	地域振興課	地域振興課 (総務企画課)

※地域振興懇談会で回答し、その場で解決等したものは除いています。